

台湾大学に来てみて、得られたこと

派遣国名:台湾
受入機関:台湾大学
派遣期間:2011.4.7~2011.7.5

私は、組織的な若手研究者等海外派遣プログラムを利用して、4月上旬から7月上旬の3カ月間、国立台湾大学で研究をさせていただきました。昨年度の海外派遣プログラムも利用させていただきましたので、合計半年間、台湾で過ごさせていただくことができました。

この間に行ったのは、森林の水収支に関する研究です。森林に降った雨は、その一部が蒸発や蒸散（まとめて蒸発散と呼びます）で大気に還り、残りが河川へ流出します。この河川への流出が、私たちの使う水資源となっています。

昨年度の海外派遣プログラムでは、平年的な雨が降ったとき、その雨の何割が蒸発散になり、何割が流出になるか、という部分をモデル化しました。一方で、現実に水不足などが起きるのは、雨の量が平年を大きく割り込んだ場合です。ですので、雨の量の変化に対応して、蒸発散や流出がどのように変化するか、ということ調べることは水資源管理などにおいて重要とされています。細かい内容はともかくとして、今回はこの点を解明し、世界中で、水資源量が雨の変化に対して脆弱である地域を同定することに成功しました。これまでモデル予測による同様の試みはありましたが、信頼ある観測データを用いたという点において、今回の成果は類例のないものではないかと思っています。

以上は研究上の成果ですが、それ以外にも台湾に来たからこそ感じられたことがたくさんあります。例えば、台湾の公用語（中国語）を私は十分に使うことができないので、そのような環境で生活・研究することの困難を、実感を持って理解できるようになりました。この経験は、これから留学生を指導する上で役立つと思います。

また、私は九大演習林に勤務していますが、台湾滞在中、台湾大学演習林の運営を見せていただく機会がありました。台湾大学演習林は立派なホテルもある観光地になっており、休日にはたくさんの観光客が訪れます。大学のほうも、それに合わせていろいろなイベントを企画しています。



台湾大学演習林内の観光用の橋

このように、日本と大きく異なる演習林の運営を知ることができたことは、今後の日本の演習林の在り方を考える上で、よい参照点になってくれると思っています。

以上のような非常に実りの多い時間を過ごすことができたのは、多くの方々のおかげです。戦略企画係のみなさんには、派遣にあたっての具体的な手続きにおいて最初から最後までお世話になりました。特に、藤原さんと波多さんには直接的にお世話になりました。森林資源科学の諸先生方（特に、大槻先生と内海先生）には、私の不在の間、さまざまな形で支えていただきました。訪問先の久米助理教授、秘書の梁さんには、素晴らしい研究・生活環境を提供していただきました。ありがとうございました。



台湾大学演習林内にあるホテルの食堂